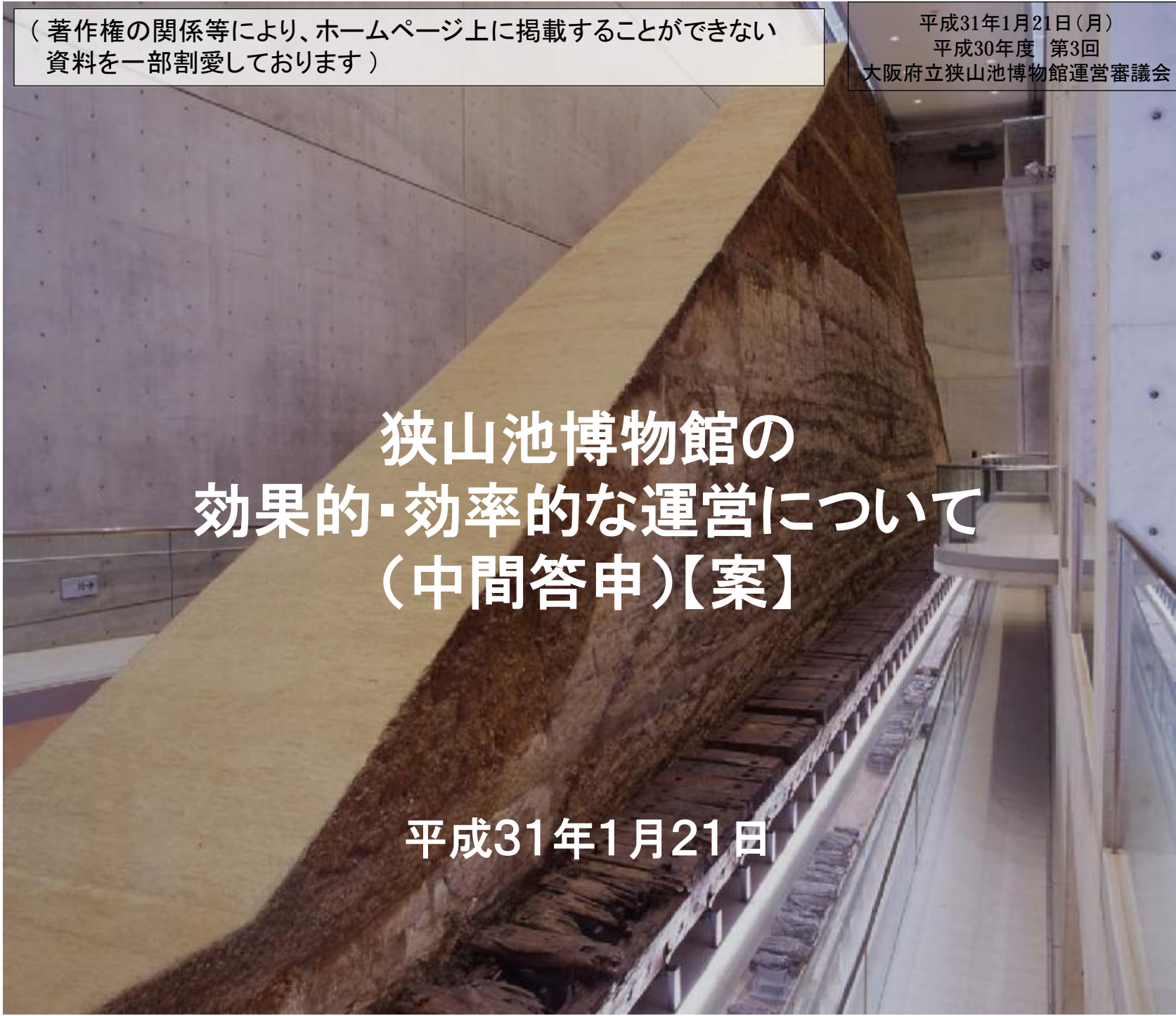


(著作権の関係等により、ホームページ上に掲載することができない資料を一部割愛しております)

平成31年1月21日(月)
平成30年度 第3回
大阪府立狭山池博物館運営審議会

資料
3



狭山池博物館の 効果的・効率的な運営について (中間答申)【案】

平成31年1月21日

狭山池博物館は、狭山池のダム化工事（平成の大改修）の総合的な学術調査により得られた史実や堤をはじめとする多くの遺構などの展示により、平成13年3月に開館以降、これまでに約160万人が来館され、安藤忠雄氏設計の圧倒的な存在感を示す建築物の中で、「狭山池をめぐる人と土と水の物語」の息吹を感じとっていただいている。

この博物館の運営は、管理主体である大阪府、併設する大阪狭山市郷土資料館の管理主体である大阪狭山市に加え、「狭山池」という地域の財産を継承・発展させたいという地域住民主体の狭山池まつり実行委員会の3者で協働運営している。

3者協働により、現時点では常設展示を良好に維持するとともに、多様な企画立案により年間約10万人の来館者を得ているが、財政的制約や限られた人的資源を勘案すると、効果的・効率的な運営に向け、博物館の持つ潜在的可能性を踏まえ、また、とりまく環境を的確に捉え、取り組みの方向性を改めて**再確認する必要がある**。

狭山池博物館は、その設立の背景により、常設展示による狭山池の歴史を通じ**過去の土木技術を伝える**ことはもとより、全国で唯一の土木の博物館であり、土木事業・土木技術の歴史の「知」の拠点としての**プレゼンスをさらに高める**取り組みも必要である。また、近年の激甚化する災害のなか、治水施設の役割をしっかりと伝え、**防災教育拠点**としての機能も果たす必要がある。さらに、狭山池が国史跡指定を受けるとともに、狭山池のダム化以降整備された狭山池公園における多様な主体による様々な活動がなされ、**まちのシンボリック資産**として、**新たな価値創造機能を高めていく**必要がある。

そこで、中間答申においては、狭山池博物館を効果的・効率的に運営していくため、先述した状況を踏まえ、博物館の意義と目指すべきものを明確にし、その実現のための取り組みの方向性を示したものである。

この方向性に基づき、運営主体において具体的な取り組みを検討・実践し、検証を行いながら運営を行い、狭山池博物館を末永く後世に引き継ぐことを期待する。

1. 狭山池博物館の意義と目指すもの
2. 狭山池博物館の取組みの方向性
3. 効果的・効率的な運営について
効果的・効率的な運営に向けた**3**つの基幹的な取組
 - ① 他機関との連携推進
 - ② 博物館全体の空間の活用
 - ③ 新たな収入の確保
4. 今後の博物館の運営展開
 - 4-1. 展開の方針
 - 4-2. 具体的な取組み
 - ①既存施設の更なる魅力向上
 - ①-1 来館者に対するおもてなし向上
 - ①-2 展示・企画の魅力向上
 - ②新たな魅力の創造
 - ②-1 防災教育拠点の構築
 - ②-2 空間活用の推進
5. 継続的な博物館の魅力向上に向けて
 - ① 好循環型運営の実施
 - ② ニーズ・シーズを把握した運営の実施

1. 狭山池博物館の意義と目指すもの (ここにしか無い"土木"とまちのシンボル)

西暦	1997	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	202x	
平成	9	~	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	~	~
	建設着手		開館						財プロ						史跡指定		区域指定		大規模修繕着手				
運営体制	府						三者協働(府・市・地元)						三者協働(+α)				...						

意義 狭山池の歴史的価値・改修の歴史・「平成の大改修」の内容と意義を後世に伝える

土木の歴史的価値の継承

■ 狭山池の歴史を通じ過去の土木技術を伝える

・ 貴重な歴史遺産と土木技術、土地開発史として歴史と文化の継承の意義を高め、保存技術を駆使し後世に広く伝えるとともに、狭山池研究成果を発信する。

⇒ ・ 先人たちが地域の安寧と発展に注いだ熱い思いの伝承

<土木技術者へのメッセージ>
<狭山池の歴史の伝承>

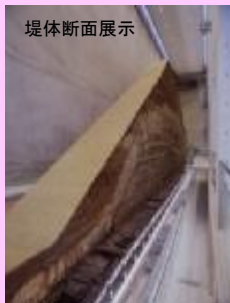
・ 土木事業やかんがい事業の意義の訴求
<土木への府民理解の推進>

⇒ 歴史的ダム保全事業により
土木主体の博物館を建設

【土木主体の博物館としては日本で唯一】

<博物館建設成功の因>

- ・ 狭山池が土木工事の歴史的遺産
- ・ 産・学・官の連携による建設
- ・ 地元からの期待と支援 (地域の財産)
- ・ 国の理解と支援 (土木事業への期待)
- ・ トップの歴史・文化的センス (土木博物館)
- ・ 時代背景 (好景気・公共事業費の上昇)



重源狭山池改修碑(国重要文化財)



土木の役割・意義の発信と将来に向けた展開・発展

土木事業・土木技術の歴史
「知」の交流・発信拠点

防災教育
拠点

現在の文化、人の交流の場として活用
まちのシンボリック資産となり、
まちの価値を高める

地域魅力創造

■ 国史跡狭山池の持つ多面的価値を活用する

・ 「まちのシンボリック資産」価値の創造 (ブランディング)
(安藤建築、日本最古のダム式ため池)

<地域価値の創造>

・ 地域協働、郷土学習、狭山池散策、観察など多様な目的を持つ主体が集う場の形成

<文化、人の交流拠点創造>

史跡狭山池が地域の財産である
という共通理解の意識醸成

■ 狭山池築造で駆使された土木の歴史を踏まえ、 土木の価値・機能を発信する

・ 土木事業・技術の広報
・ 新たな土木技術の発信

⇒ <将来を担う技術者の育成>

・ 収集保存機能の強化、調査研究の推進
<アーカイブス整備>

・ 防災インフラの価値発信
・ 生涯学習・学校教育支援
<防災教育拠点化>

「コミュニケーション」
「プレゼンテーション」

相互
連携

「アーカイブス」

展示・情報発信

収集保存

新技術等のPR

調査研究

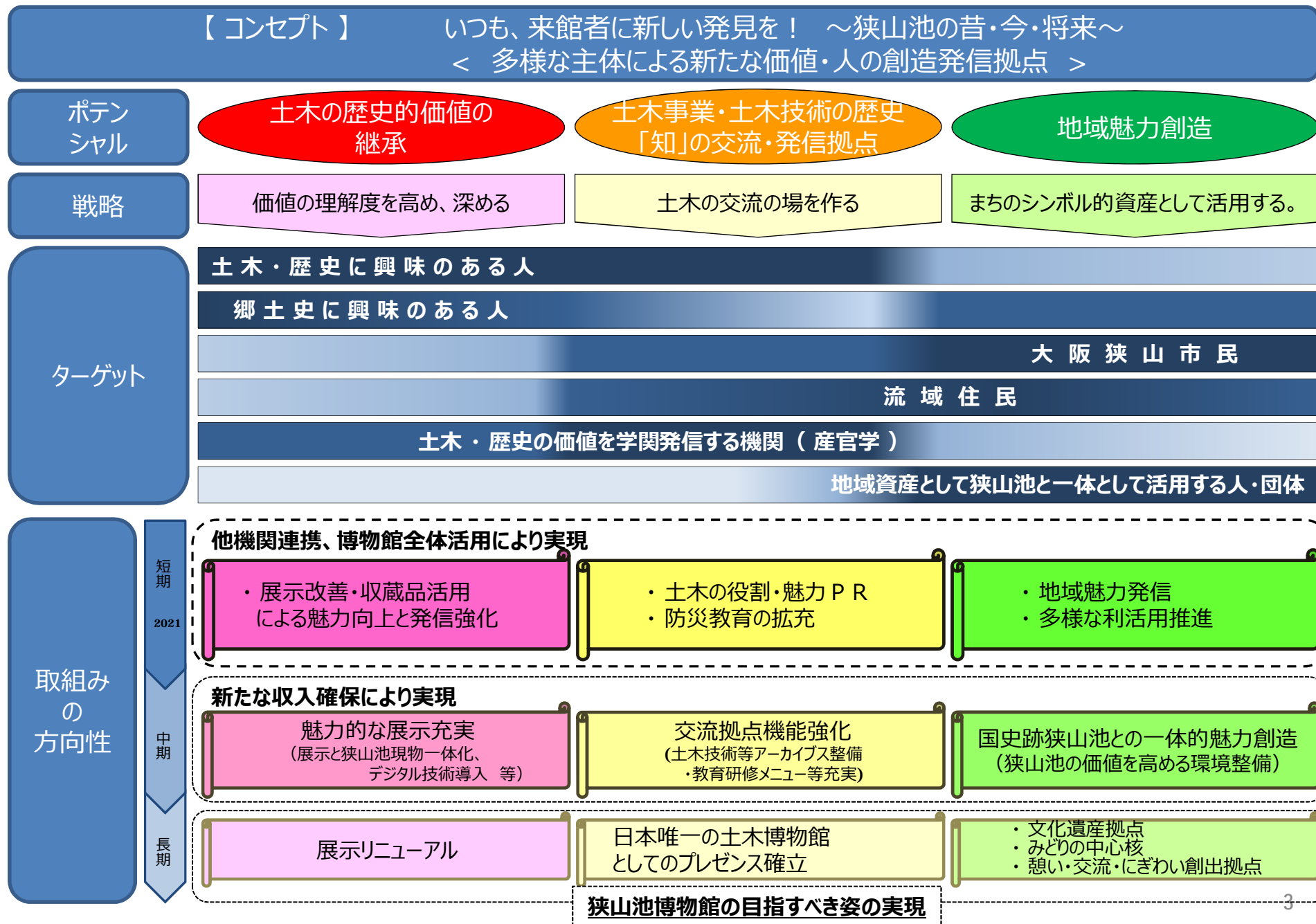
教育学習・一般参加

(小学生 校外学習風景)



資料の収集・保管・展示、国史跡狭山池の調査・研究、成果のアーカイブ、経験「知」の蓄積

2. 狭山池博物館の取組みの方向性

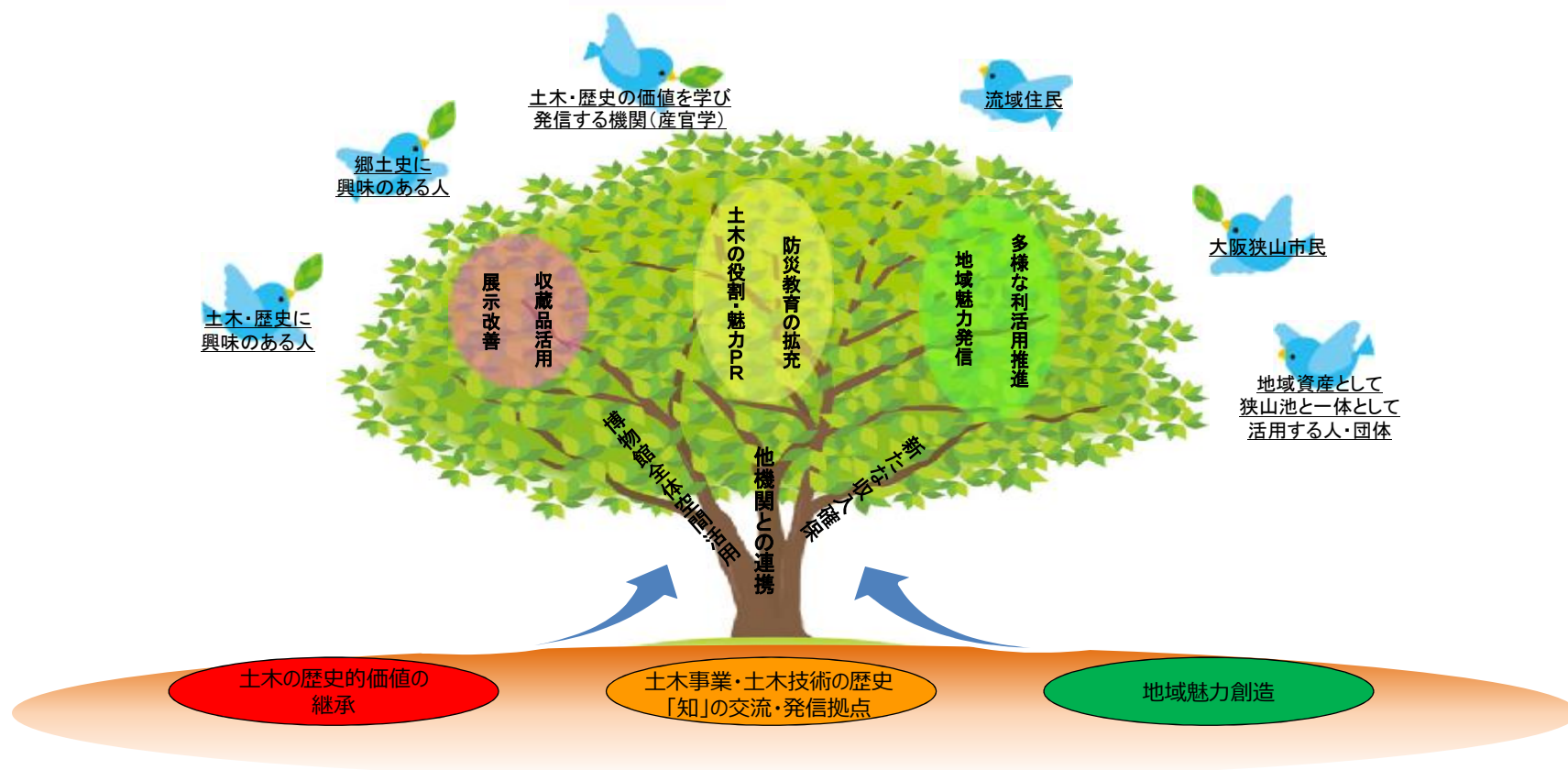


3. 効果的・効率的な運営について

効果的・効率的な運営に向けた3つの基幹的な取組

狭山池博物館の効果的・効率的な運営の実現のために、以下の3つの取組みを行い、博物館の魅力を向上させ、来訪者を増やすことによって、さらに効果的・効率的な運営システムを確立する。

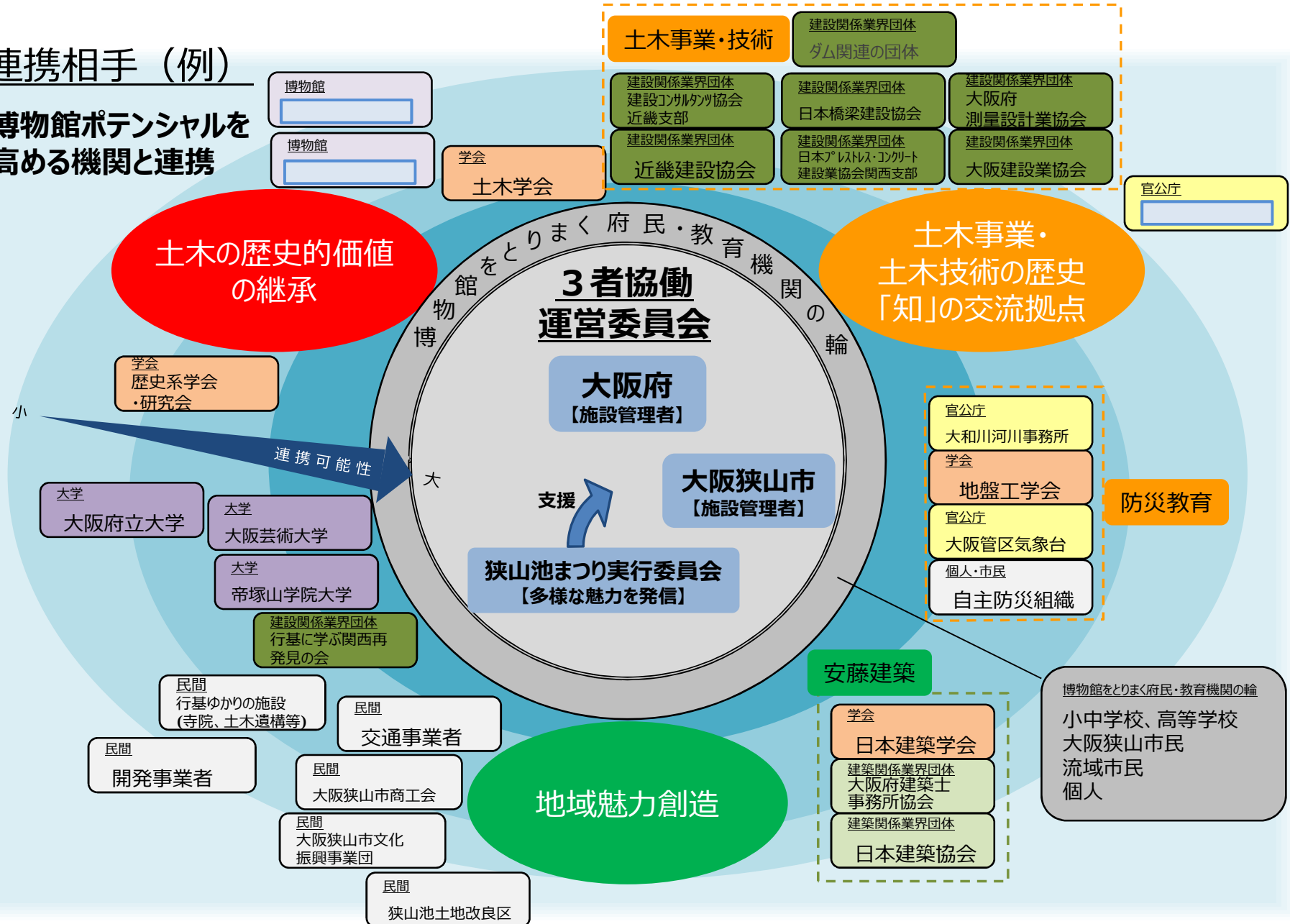
- ① 他機関と連携した新たな企画による来訪者数の向上（効率的な博物館運営）
- ② 博物館全体の空間の多様な主体による利活用（施設の効果的活用）
- ③ 中長期の取組み実現に向けた新たな収入（自主財源）確保



① 他機関との連携推進

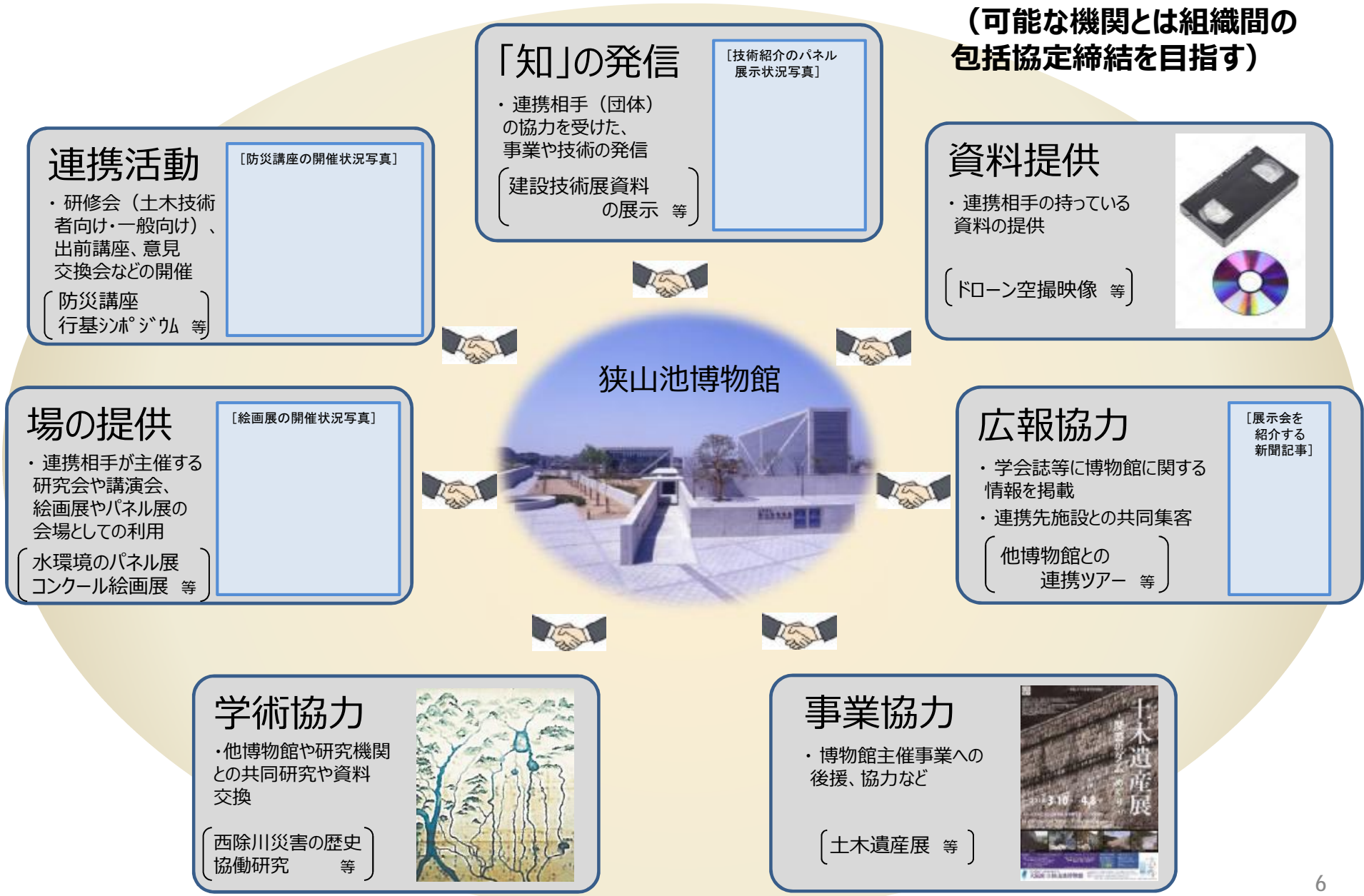
連携相手（例）

博物館ポテンシャルを
高める機関と連携



多様な方式による連携（例）

様々な形式で連携を行う
（可能な機関とは組織間の
包括協定締結を目指す）

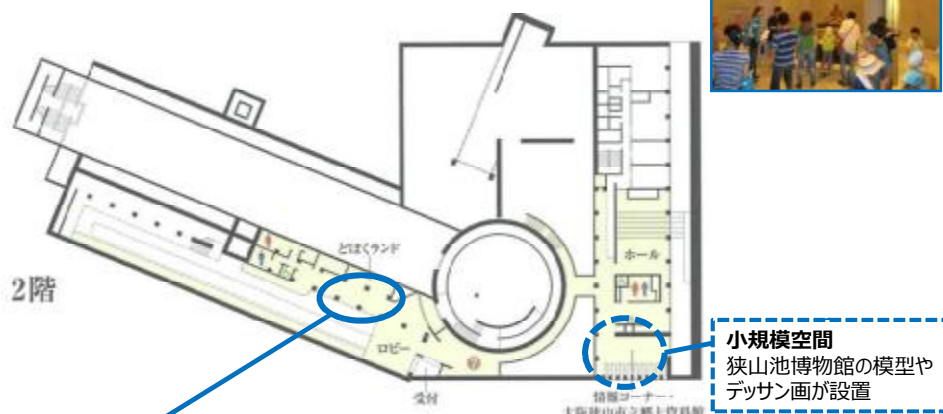
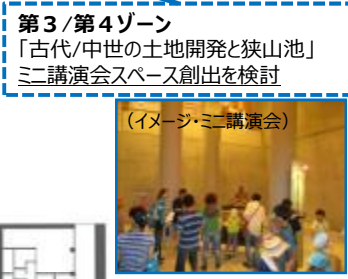
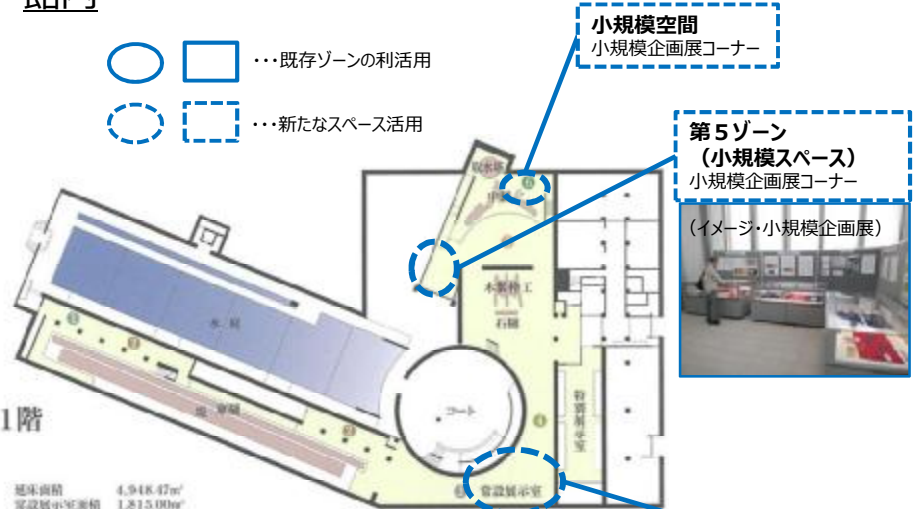
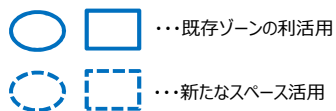


施策展開（例）

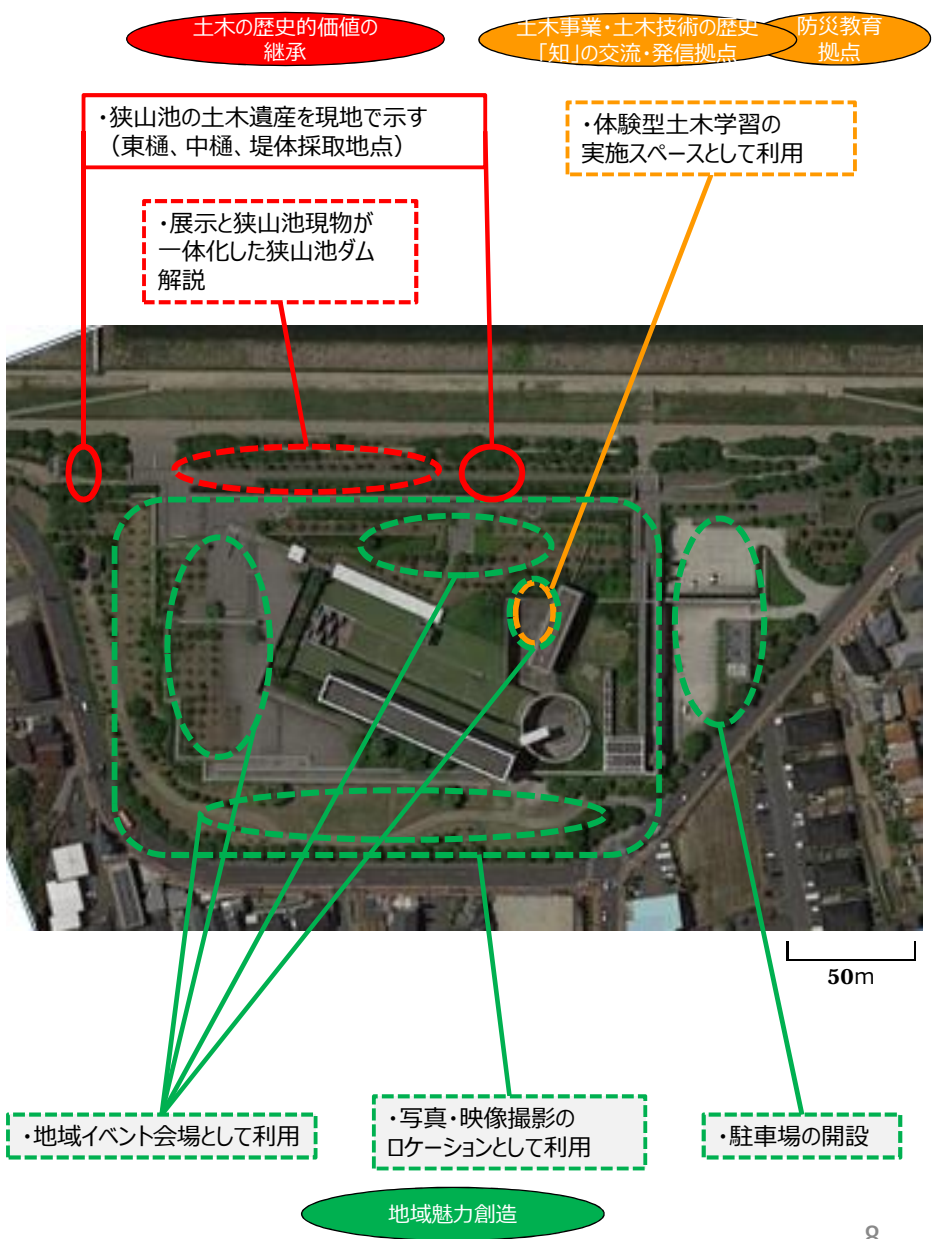
	ポテンシャル		
	土木の歴史的価値の継承	土木事業・土木技術の歴史 「知」の交流・発信拠点	地域魅力創造
短期的 取組み	<p>○ 展示改善・収蔵品活用 による魅力向上と発信強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幅広い層が理解しやすい展示内容への改良 ・展示、案内の多言語対応 ・見て、触れてわかる展示の作成 ・どぼくランドの情報充実、見せ方改良 ・ホームページの発信強化 (展示物解説、収蔵品一覧の掲載等) ・連携機関による博物館活用の推進 ・共同研究の推進 	<p>○ 土木の役割・魅力PR</p> <p>○ 防災教育の拡充</p> <ul style="list-style-type: none"> ・建設技術展（模型、VR等） ・土木事業の意義と魅力や最新技術を伝える企画展、講演会の開催 ・ため池・ダムに関する情報の収集・発信 (情報量日本一の博物館) ・高校・大学の研究発表やワークショップの開催 ・子供向け土木体験イベント実施 (測量体験、構造物組立体験等) <div style="border: 1px dashed black; border-radius: 15px; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>○ 防災 小中学生の課外授業受入拡充</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防災情報を発信するための展示改良 ・地域の災害史の研究 </div>	<p>○ 地域魅力発信</p> <p>○ 多様な利活用推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・狭山池まつりをはじめとするにぎわいづくり ・ハハハを活用した情報発信 ・民間と協力したハイキングコース設定と 広報紙によるPR ・安藤建築の魅力を活用した見学会や 建築イベントの開催 ・博物館・狭山池オリジナルグッズ開発 ・行基ゆかりのネットワークを用いた魅力発信・ イベント開催 ・インフラツーリズム誘致 ・狭山池から博物館へ誘導する仕掛けづくり (統一したデザインの案内板設置) ・歩行者ネットワーク形成、狭山池と西除川 緑道のアンダーパスによる接続
中期的 取組み	<p>○ 魅力的な展示充実 (デジタル技術導入等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・展示のデジタル化 (デジタルサイネージ、VRなどの導入) ・展示と現物(狭山池)の一体化 (狭山池現地の説明板改良等) ・残存する池守田中家文書の解読・発信 	<p>○ 調査・研究の拠点機能強化 (土木技術等アーカイブス整備 ・教育研修等メニュー充実)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・常設の防災教育拠点施設の設置 ・資料・情報等のデジタルアーカイブス作成 	<p>○ 狭山池との一体的魅力創造 (狭山池の価値を高める環境整備)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歴史資産の活用 ・狭山池に集える水と緑の歩行空間ネットワー クづくり ・パークマネジメント(狭山池公園)との相乗 効果発現（地域活動や日常利用の場の創出） ・民間による狭山池公園・狭山池博物館の 運営サポート
長期的 取組み	<p>○ 常設展示の全面的リニューアル</p>	<p>○ 日本で唯一の土木主体博物館として のプレゼンス確立</p>	<p>○ 狭山池を核としたまちづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歴史資産の発信拠点形成 ・みどりの中心核としての賑わいづくり ・水と緑のアメニティ軸整備

② 博物館全体の空間の活用（既存ゾーンの利活用と新たなスペース活用）

館内



屋外



③ 新たな収入の確保

○ 魅力を高めるための運営費

土木の歴史的価値の継承

魅力的な展示充実

デジタルサイネージ

[デジタルサイネージ イメージ写真]

VR体験

[VR体験 イメージ写真]

土木事業・土木技術の歴史「知」の交流・発信拠点

交流拠点機能強化

交流拠点コーナー



地域魅力創造

狭山池との一体的魅力創造



⇒ 新たな収入の確保 (案)

- ◆ 使用料設定範囲・単価の見直し
 - ・ 全空間使用料設定
 - ・ 目的別の弾力的使用料設定
- ◆ 駐車場開設
- ◆ 有料特別展等の実施
- ◆ グッズ、地産品販売 等

- ◆ 外部資金の導入
 - ・ 助成金
 - ・ 補助金
- ◆ 博物館応援団づくり 等

○ 基盤となる運営費 = 人件費 / 光熱水費 / 通信費等 / 施設管理費 / 施設補修費 / 特別展・企画展等の製作費

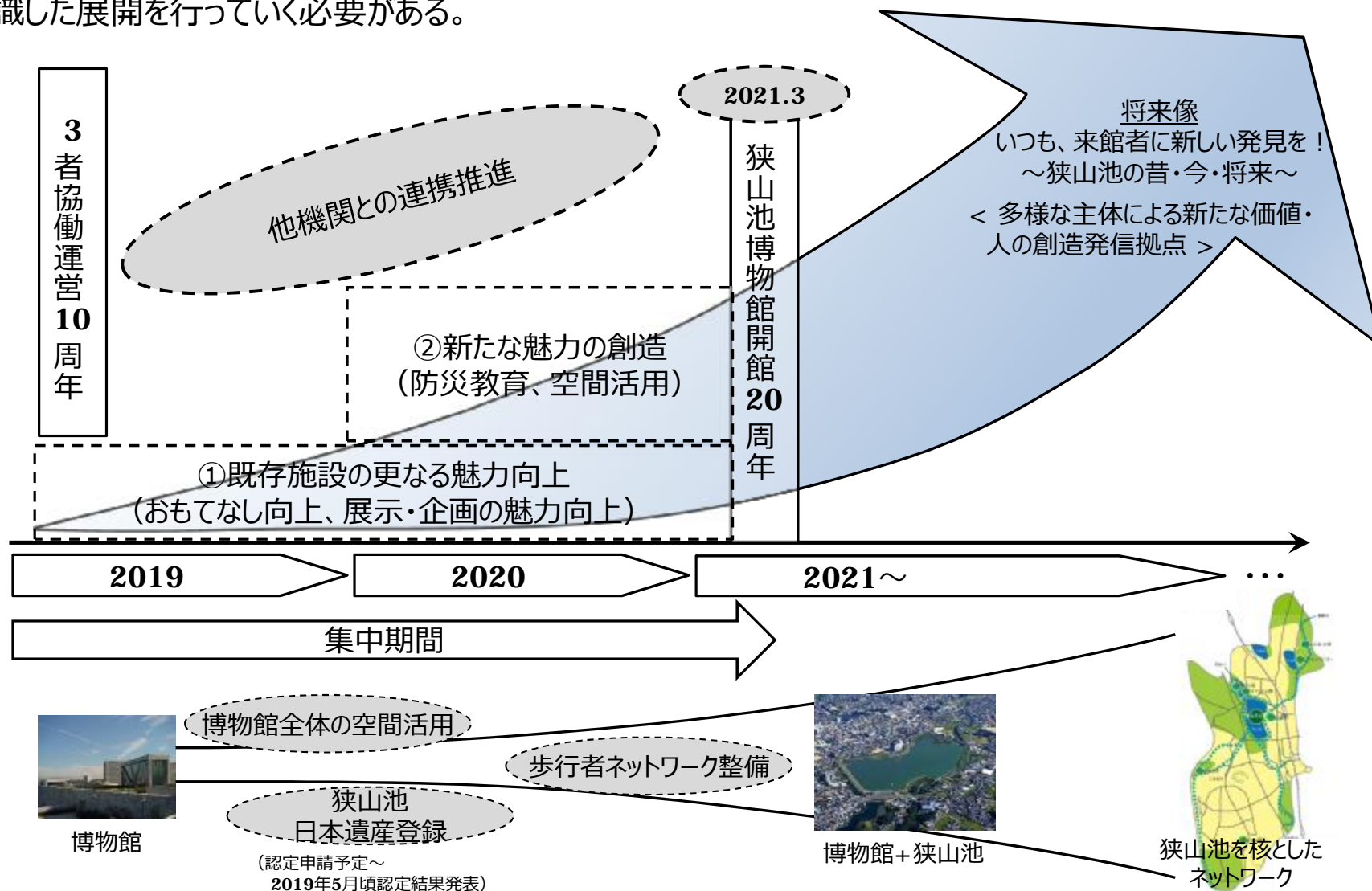
⇒ 計画的な維持管理費の確保

[参考1-3]

4. 今後の博物館の運営展開

4-1. 展開の方針

博物館開館**20**周年となる**2020**年度末までの期間を集中期間と位置付け、既存施設の更なる魅力向上（来館者への魅力増進）と新たな魅力の創造（潜在的利用者層の掘り起こし）を行いながら、前章までに示した取組みを実践し、狭山池博物館が目指すべき姿に確実に近づけるよう、時間軸を意識した展開を行っていく必要がある。



4-2. 具体的な取組み

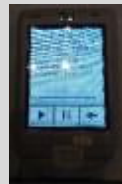
① 既存施設の更なる魅力向上

①-1 来館者に対するおもてなし向上

○展示物のわかりやすい解説



解説の充実
(年齢・言語など多様な利用者に対応する内容)



音声ガイド
(既存2008年～)

[ガイドアプリ
ホームページ画像]

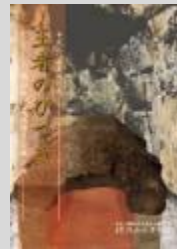
スマートフォン等による
解説の閲覧



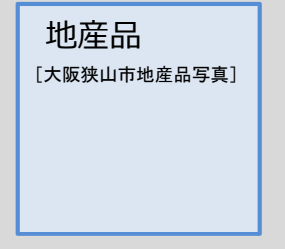
Osaka Free
Wi-fi整備

○博物館での体験の持ち帰り

図録の発行

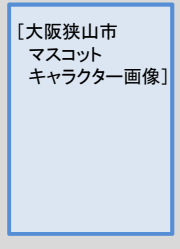


博物館グッズ開発



地産品

[大阪狭山市地産品写真]



[大阪狭山市
マスコット
キャラクター画像]

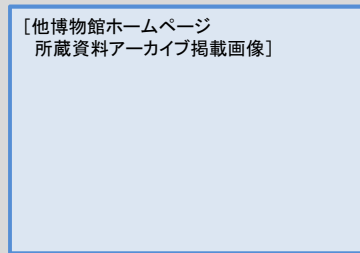
○ホームページの改良

◆展示物解説の掲載



◆所蔵資料アーカイブ

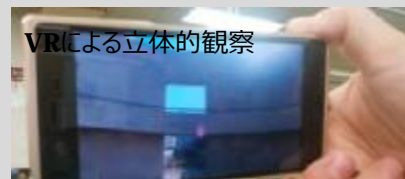
[他博物館ホームページ
所蔵資料アーカイブ掲載画像]



◆館内の紹介

ストリートビューによる館内見学

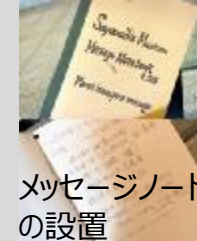
[googleストリートビュー
狭山池博物館館内画像]



VRによる立体的観察

○博物館ボランティアによるサービス向上の取組み

来館者世界地図



メッセージボード
の設置

英語版紙芝居作成



①-2 展示・企画の魅力向上

土木の歴史的価値の 継承

国史跡狭山池等の調査・研究



例) 狭山池や大阪狭山市
近隣の歴史研究や
池守田中家文書の解読
を進め、成果を発表する。

地域による狭山池の歴史の伝承



例) 平成30年度より開催している
博物館ボランティアによる企画展
の取組みを継続していく。

土木事業・土木技術の歴史 「知」の交流・発信拠点

土木技術の意義と魅力を伝える 企画展

[建設技術展展示状況写真]

例) 建設技術展の主催団体や
出展団体と連携し、博物館で
ミニ建設技術展を開催。

小中学生への土木魅力紹介

[土木の魅力紹介出前講座状況写真]

例) 小中学生に土木の魅力を伝える
事業を実施している団体と連携し、
博物館での出前講座を実施。

地域魅力創造

インフラツーリズムの誘致

[インフラツーリズムツアー募集チラシ]

例) 博物館・狭山池を行程に入れた
バスツアーなどを誘致。

狭山池博物館建物見学



例) 建築関係の学会や協会と連携し、
博物館の建物にスポットをあてた
見学会や安藤建築に関する展示会
を開催

② 新たな魅力の創造

②-1 防災教育拠点の構築

○常設防災学習コーナーの設置

設置イメージ：どぼくランドに防災学習展示を追加

(現状) 土木遺産・土木事業の紹介



(整備イメージ)

・ハザードマップ

… 自分のまちの被害や特性を知る

[ハザードマップ学習展示状況写真]

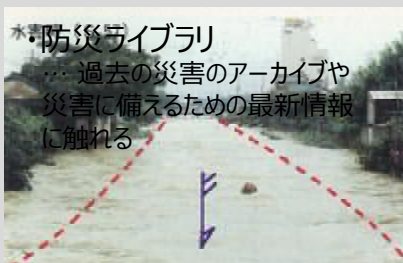
・減災トレーニング

… 災害発生から避難までの流れを体験

[減災トレーニング展示状況写真]

・防災ライブラリ

… 過去の災害のアーカイブや災害に備えるための最新情報に触れる



・津波・高潮ステーションとの連携

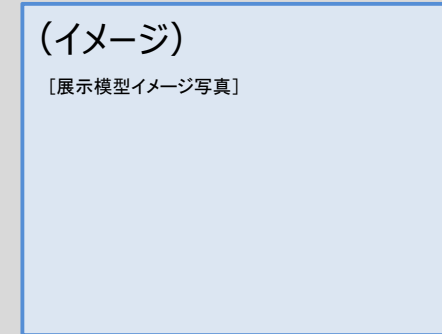


○展示物の作成

官学連携により狭山池の機能を見て触れて理解できる立体模型を作成

(イメージ)

[展示模型イメージ写真]



○防災カードゲーム等を活用した防災教育

子どもたちが遊びながら防災について学ぶことができるカードゲーム等を活用し、楽しみながら防災について学ぶことができる場を提供



○学習会開催

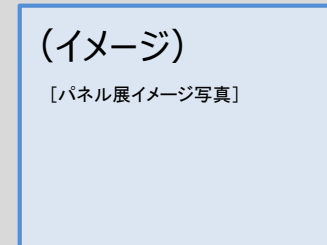
2020年度の学習指導要領改訂による防災教育の充実化の動きと同調

○防災パネル展の開催

防災週間(8月30日～9月5日)に合わせて防災パネル展を開催

(イメージ)

[パネル展イメージ写真]



②-2 空間活用の推進

館内



第2ゾーン
「狭山池の誕生」
敷築工法に関連し、地盤補強工の新技术に関する情報発信。



第1ゾーン
「狭山池への招待」
堤体断面の解説の充実。



(イメージ・ミニ講演会)



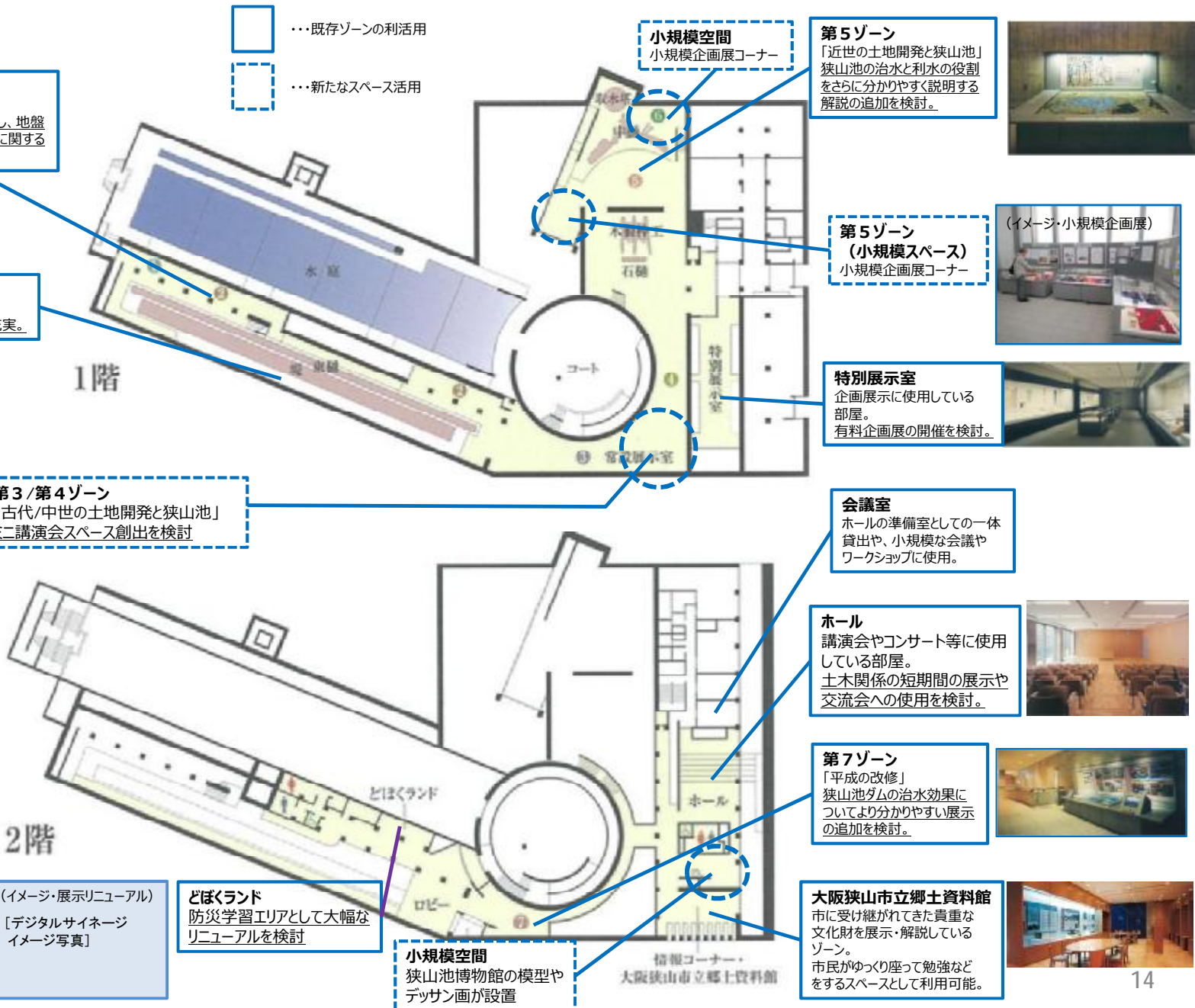
第3/第4ゾーン
「古代/中世の土地開発と狭山池」
ミニ講演会スペース創出を検討



(イメージ・展示リニューアル)
[デジタルサイネージ
イメージ写真]

どぼくランド
防災学習エリアとして大幅な
リニューアルを検討

小規模空間
狭山池博物館の模型や
デザイン画が設置



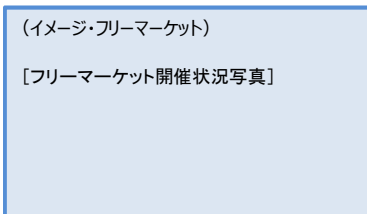
屋外

- □ ……新たなスペース活用
- □ ……新たな利活用

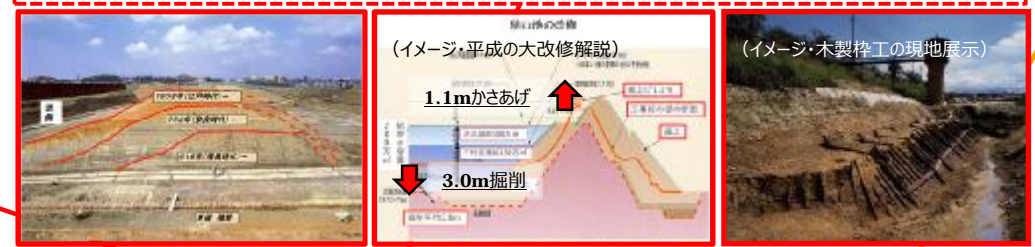
・狭山池の土木遺産を現地で示す
(東樋、中樋、堤体採取地点)



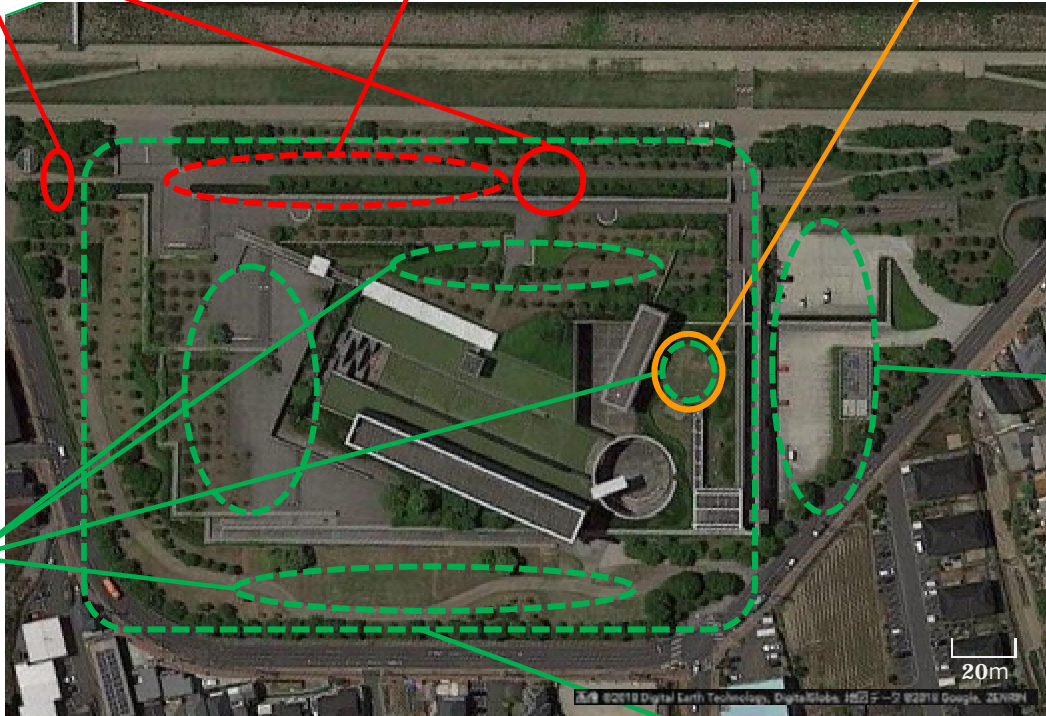
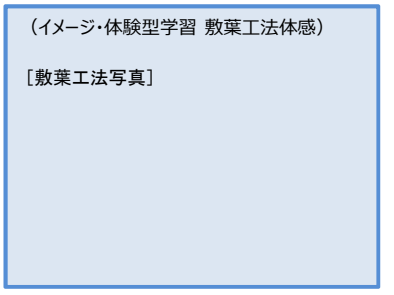
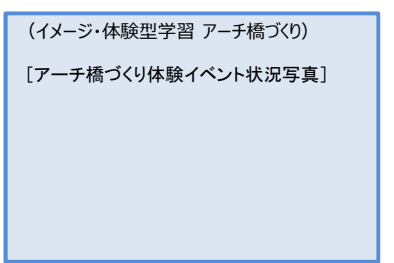
・フリーマーケットやマルシェ等の
地域イベント会場として利用



・展示と狭山池現物が一体化した狭山池ダム解説



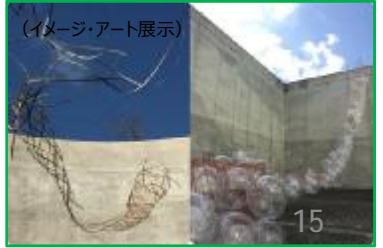
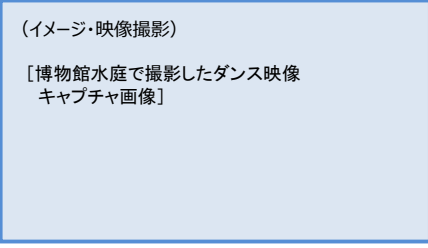
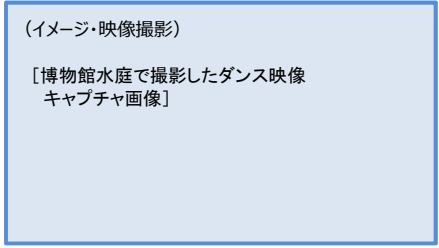
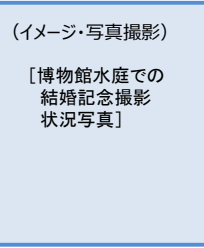
・体験型土木学習の実施スペースとして利用



・駐車場の開設



・写真・映像撮影、アート展示のロケーションとして利用



②-2 空間活用の推進

○ 狭山池との結びつき強化

- ・ 狭山池から博物館へ誘導するハード・ソフトの仕掛けづくり
(説明板改良、案内表示板設置、歩行者ネットワーク、資源の理解を深めるプログラムなど)

・ 狭山池公園、副池オアシス公園、西新町公園の一体的な利活用
(歩行者ネットワークの形成、憩いの場設置)



・ 狭山池と西除川緑道をつなぐアンダーパス
(歩行者ネットワークの形成)



(『大阪狭山市みどりの基本計画』より)

○ 狭山池博物館～狭山池全体

- ・ 狭山池を活用したインフラリズム
= 関連施設との連携ツアー開発。
- ・ 狭山池と博物館を繋ぐイベント等の実施

周遊路 1周2,850m
(徒歩 約1時間)



・ 狭山池の現物の活用(史跡・遺構)
現状 = 文字のみの説明板
⇒ 説明板改良、案内表示板設置により
狭山池の現物と博物館展示を結ぶ
(池から博物館展示へ、博物館から池現物へ)



[AR説明アプリ
イメージ写真]

AR説明アプリ(イメージ)

・ 狭山池の現物の活用(史跡・遺構)
ハードとソフトの連携プログラム
⇒ 狭山池の史跡・遺構の研究成果の発信
博物館の企画展での発信と合わせて、
狭山池の現物と結び付ける企画を実施
(池から博物館展示へ、博物館から池現物へ)

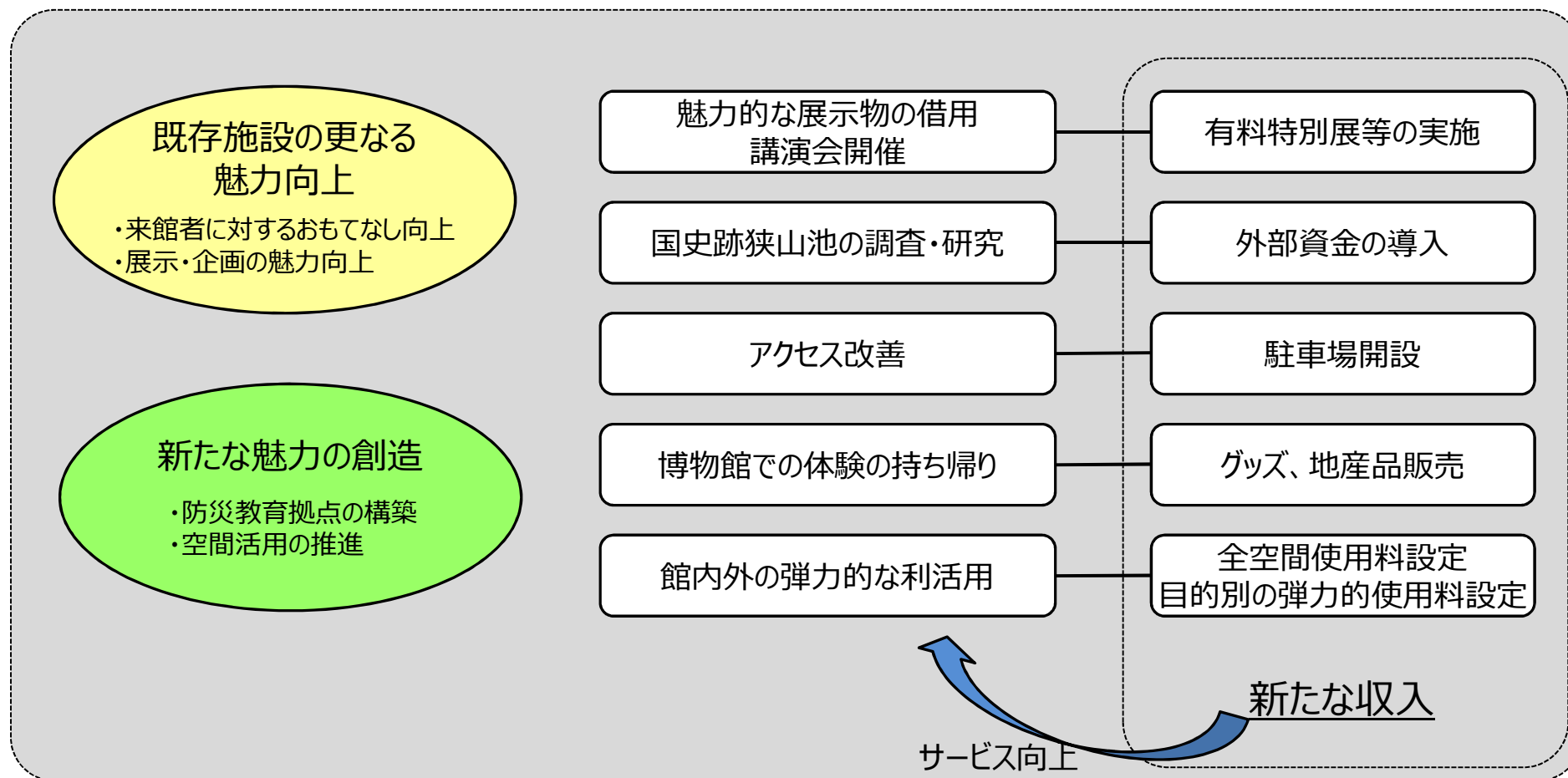


・ 狭山池の現物の活用(狭山池ダム)
現状 = ダム施設の説明板等の設置なし
⇒ 説明板設置、案内表示板設置により
狭山池の現物と博物館展示を結ぶ
(池から博物館展示へ、博物館から池現物へ)

5. 継続的な博物館の魅力向上に向けて

① 好循環型運営の実施

既存施設の更なる魅力向上、新たな魅力の創造に資する取組みを通じ得られた新たな収入を、更なるサービス向上に活かし、好循環型運営へと繋げる。



② ニーズ・シーズを把握した運営の実施

来館者の需要を従来より深く分析（顕在需要の確認）、さらに府民が博物館に求めているものを調査（潜在需要調査）し、分析結果を運営方針に反映させ、狭山池博物館をより魅力あるものにするサイクルを確立する。

